授業科目名	社会福祉調査の基礎	単位数	2
担当教員名	矢原　絵理	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）	社会福祉士として福祉現場の経験がある教員が、実践的視点から社会福祉調査について解説する。		

「学位授与の方針」との関係

星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。

A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。
B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。
C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。
D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。
E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。
F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。

授業の到達目標及びテーマ

（１）社会福祉調査の意義・目的について理解する。
（２）社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係について理解する。
（３）社会福祉調査における倫理、個人情報保護について理解する。
（４）量的調査ついて理解する。
（５）質的調査について理解する。
（６）ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について理解する。

授業の概要

社会福祉の援助の目的は、生活上の課題を抱えているその人を、人間として尊重しながら、その人らしく生活できるよう支援することにある。支援は少なくても、多すぎても良くなく、利用者の持つニーズを客観的に、的確に把握することが求められる。利用者のニーズを正確に捉えることができれば、その後のアセスメントやプランニング、具体的な支援といった一連の支援過程が利用者の自己実現、自立のために効果的に進む。また今存在する制度やサービスが福祉ニーズや福祉問題に対応できているかという効果や成果を評価することも必要である。このようにニーズやサービス効果を正確に捉えるということは大切なことであり、そのために必要になるのが「社会福祉調査」である。したがって、この科目では「社会福祉調査」の意義や目的、方法について学ぶ。またそれに伴う倫理、個人情報保護についての理解も求めたい。

授業計画

第１回：社会福祉調査の意義と目的

第２回：福祉サービスと社会福祉調査
第３回：社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係
第４回：社会福祉調査における倫理と個人情報保護
第５回：量的調査の概要
第６回：量的調査の方法①種類と方法
第７回：量的調査の方法②質問紙の作成方法と留意点
第８回：量的調査の方法③調査票の配布と回収
第９回：量的調査の方法④集計と分析
第１０回：質的調査の概要
第１１回：質的調査の方法①観察法と面接法
第１２回：質的調査の方法②記録の方法と留意点
第１３回：質的調査の方法③データ整理と分析
第１４回：ソーシャルワークにおける評価
第１５回：本講義のまとめ
定期試験

学修内容
レポートテーマ：「授業計画」の第１回から第 14 回までの学習内容について、テキストの第１章から第６章まで自己学修する。
科目修得試験：レポートについても添削指導を受け、合格したうえで科目修得試験を提出する。

教科書
一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟（編）『最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座５　社会福祉調査の基礎』中央法規出版　２０２１年

参考文献
（１）畠中 宗一・木村 直子『社会福祉調査入門』ミネルヴァ書房　２００４年
（２）立石 宏昭『社会福祉調査のすすめ　実践のための方法論』ミネルヴァ書房　２００５年
（３）北川 清一・相澤 譲治・久保 美紀『ソーシャルワーク・リサーチの方法』相川書房　２００４年

学生に対する評価
レポート評価（５０％）、科目修得試験（５０％）を総合して評価する。

。